

フジの花殻切りに取り組む参加者＝羽島市竹鼻町、竹鼻別院

「来年も咲いて」フジの花殻切り

羽島市の竹鼻別院

県天然記念物で、樹齢300年以上といわれる竹鼻別院（羽島市竹鼻町）のフジの花殻切りが10日、同別院で行われ、地元住民やボランティアの行員らが作業に励んだ。

住民有志でつくる「竹鼻別院の藤を守る会」（後藤博美会長）が中心となってフジの世話を続けている。花殻切りは来年に向けた作業で、咲き終わった花房が余分な種を付け、樹勢が弱まるのを防ぐために行われている。

同会の会員と大垣共立銀行、大垣信用金庫の行員、職員ら計約80人が参加。参加者はフジ棚の上に登ったり、脚立やベンチから手を伸ばしたりしながら、枝切りばさみで丁寧に花殻を切っていった。

後藤会長は「今年は天候も良くきれいな花が咲いた。しっかり世話をして、来年も満開のフジを大勢の見物客に見てもらえるよう世話をしたい」と話した。（玉田健太）

無断複製・転載を禁じます